

山本哲照さんの「最近見た20年代の映画」に寄せて(画像追加版)

7組 中條 満

山本さんの「最近見た昭和20年代の映画」拝読させて頂きました。映画に関して10年ほど前に何人かの方々が「WEB11」に投稿されているのを思い出しながら読ませて頂きました。私はここ数年1930から50年代の映画を見るため PrimeVideo を年に1回(1ヶ月間)程度契約、楽しんでおります。今回は10月18日から「01年」生まれの「ゲーリー・クーパー」のまだ若いころの作品「ヨーク軍曹」「摩天楼」「打撃王」「誰がために鐘は鳴る」「真昼の決闘」などを、そして「カサブランカ」の「イングリッド・バーグマン」作品などを見始めておりました。



グレゴリー・ペックのスナップ写真 左端の女性のアラベスクで共演したイタリア女優のソフィア・ローレン

その時たまたま山本さんの投稿があり、山本さんが最も好きな役者は「グレゴリー・ペック」であるとのことでしたので急遽最優先で見ることにさせて頂きました。映画館で見た「58年」の「大いなる西部」は音楽とともに圧巻でテレビ、ビデオで何回も見ていました。早速、とりかかりすべて字幕版で8本ほど見ました。「グレゴリー・ペック」は「16年」生まれで身長189cm やっぱりかっこよくただそれだけではなく演技派です。見ごたえがあった順に、「62年」の「アラバマ物語」で誠実な弁護士役を。「47年」の「紳士協定」ではユダヤ人になりきる意志を貫く男。山本さんが今回取り上げている「49年」の「子鹿物語」では優しい父親役を演じ、「47年」の「白昼の決闘」、「45年」の「白い恐怖」などが印象に残りました。

山本さんから後日メールで7作品ほどお勧めがあり、「49年」の「頭上の敵機」、「51年」の「勇者のみ」、「61年」の「ナバロンの要塞」をさっそく見ました。そのほか「64年」の「日曜日には鼠を殺せ」、「66年」の「アラベスク」、「58年」の「レッドムーン」、「79年」の「ブルジルから来た少年」などはまた後日見るのを楽しみにしております。



アラバマ物語

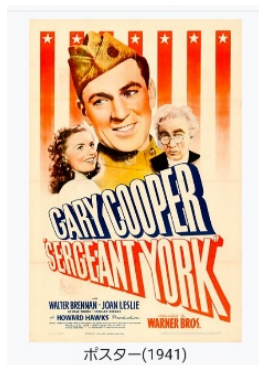


紳士協定



子鹿物語

映画といえば子どもの頃、此処彼処に看板がありどれにしようか迷うことが多くありましたが雑誌など参考に前評判のよい洋画と東宝系の邦画を好んで見ていたのがよい思い出です。映画は忘れることが許され、何度見ても新鮮で印象が都度深くなるのが最高です。最近では最も心が休まり、自身の健康管理維持にも良いかなと思っています。



ポスター(1941)



ヨーク軍曹のポスターとスチール写真



誰が為に鐘は鳴る

1934年/19歳



イングリッド・バーグマンとバラ

さて2015/8/4付で下赤隆信さん「映画の思い出いろいろ」の文中で「「物体X」、という映画があつて・・・」、関連して、「ヨーク軍曹」という映画を観たい、見たいと思っていたが、ついに観る機会はなかった。」と書かれていましたが、もう8年前のことですが観られましたですかね？まだでしたらPrimeVideoでどうぞ。⇐山本さんから私信で連絡お願い致しました。

追加で！WOWOW でも近頃年末年始特集で黒澤明作品はなくなりましたが、ぜひ日本語字幕版で黒沢監督全作品見てみたい。最新デジタル技術で蘇った「7人の侍」ではなく！

完